

東日本大震災被災者生活支援事業に係る
ご近所支え合いマップづくりマニュアル
Version3

【支え合いマップ地域支援委員会 令和2年3月版】

社会福祉法人岩手県社会福祉協議会

目 次

～はじめに～ (P1～P2)

1	支え合いマップ作成のテーマ・目的	2
2	取組の流れ	2

～第1章 事前準備編～ (P3～P4)

1	マップ作成の枠組み	
1	地区の選定	3
2	協力いただく住民	3
<運営のポイント>		
3	場所・準備するもの	4
4	役割分担	4
5	つながりの線の書き方・色分けなど	4
6	聴き取り時間	4

～第2章 当日編～ (P5～P8)

1	聴き取りの前に	
1	雰囲気づくり	5
2	趣旨・注意事項の説明	5
3	自己紹介	5
2	聴き取り項目	
1	協力いただく住民の情報	5
2	ご近所の基礎情報	5
3	気になる人情報	6
4	つながり情報	6
5	ご近所・住民の強み情報	7
3	聴き取りの終わり方	7
4	作成したマップの保管	8

～第3章 実施後（フォロー）編～ (P8～P12)

1	マップ作成後に取り組むこと	
1	世話やきさんや見守りの実態、生活不安・困りごとの発見・確認	8
2	社協での学び・作戦会議	9
3	住民との検討会	10
4	取組	10

～ Q&A 編～ (P13)

～マニュアルを手にしたあなたへ
支え合いマップの効果・可能性～



支え合いマップは、概ね 50 世帯の地図に、地域の「気になる人」や住民の関わりなどを書き込んでいくものです。

- ☆ 地域の知らなかったことが見えてくる！
 - ☆ 自分だけの困りごとは、実は地域みんなの困りごとだとわかる！
 - ☆ 住民の関係性が見えると、個別課題・地域課題の解決策が立てやすい！
- などの良さや、
- ☆ 認知症カフェやイベントを開催する際のチラシの配布先の確認
 - ☆ 民生委員の引き継ぎ
 - ☆ イベントの開催や地域福祉活動計画を策定する際の地域の特徴、
地域力の把握
- などにも生かすことが期待される有効的なツールです。

気軽な気持ちで取り組んでみませんか・・・？ ☺

岩手県社会福祉協議会では、住民流福祉総合研究所所長 木原孝久氏が提唱・指導する「住民支え合いマップ」をツールとした地域支援に取り組んでいます。

本マニュアルは、住民の皆さんから地域のことを教えていただき、住民同士の支え合いを生かした地域づくりを目指すため、住民支え合いマップ作成に取り組む際の一定の流れを示すものです。

「ご近所支え合いマップづくり」は、住民と支援者が協働し、地域の現状と課題に気づき、解決策を考え、小さな実践を積み重ね、住民の主体形成と福祉コミュニティ形成を進めるものです。

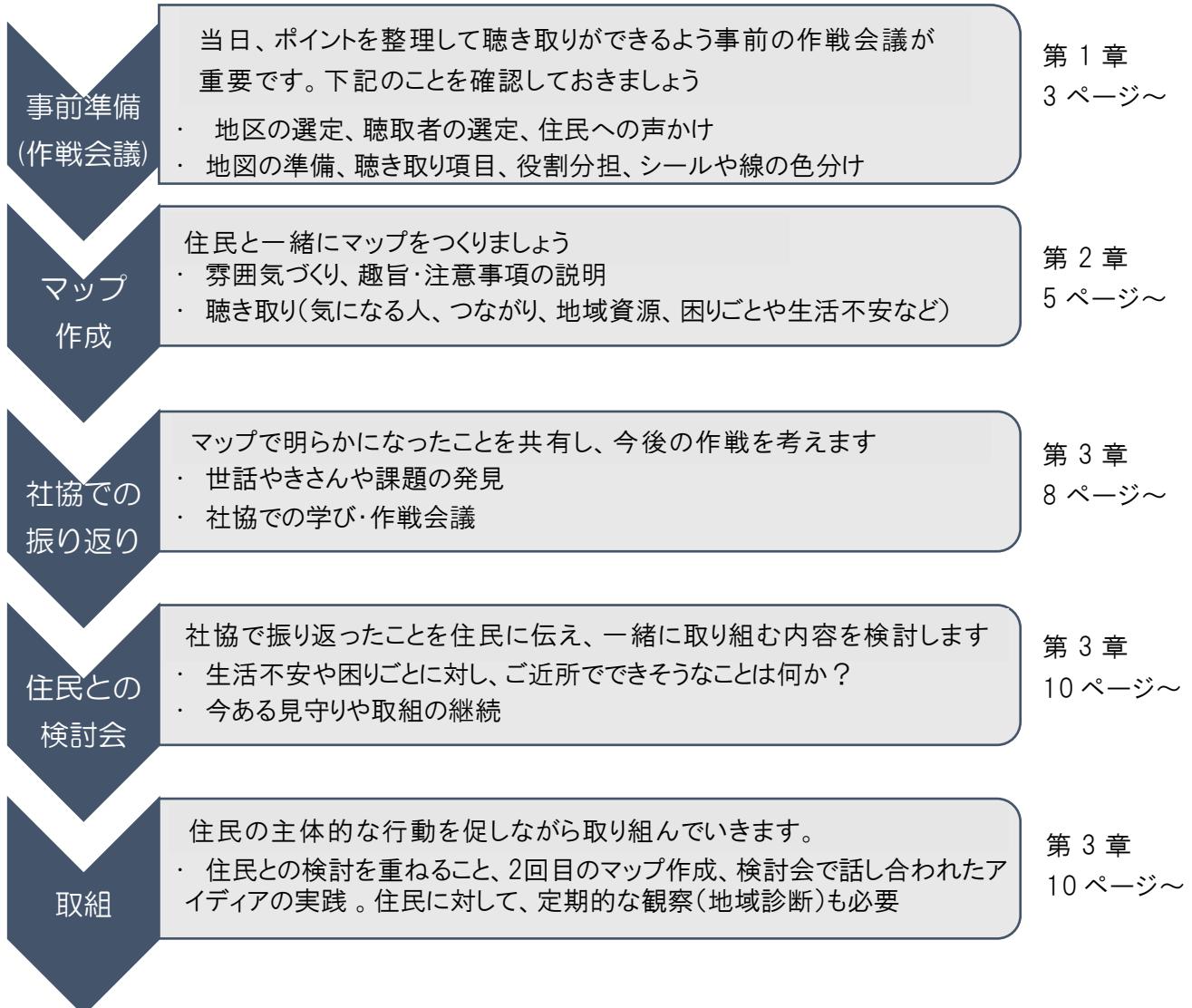
支え合いマップづくりマニュアルの「Version3」までは、生活支援相談員や主に地域で活動する支援者の視点で作成していますが、汎用性のある内容にも考慮しました。

1 支え合いマップ作成のテーマ・目的

「つながりの再構築～住民同士が行き来する住民流の関係づくりをすすめる」

被災世帯の見守り・支え合いの関係性を把握することから出発し、住民と一緒に地域の実情(気になる人や困りごとを抱えている人、生活不安、地域の良さ)を把握することで、住民が動き出すきっかけとなり(意識の醸成)、更なる関係づくりを目指す。

2 取組の流れ



社協組織全体の取組とするため、生活支援相談員だけではなく、生活支援相談員担当課長等が中心となり、社協の他部署とも連携して取組ができるようマップ作成の目的とプロセスを共有しましょう。

～第1章 事前準備編～

1 マップ作成 基本の枠組み

1 地区の選定

東日本大震災被災者が現に住んでいる概ね 20~60 世帯の地区

※ これ以上の世帯数になる場合は、2 地区に分割するなどの配慮が必要

住まいの種類（応急仮設住宅、みなし仮設住宅、災害公営住宅、移住再建地の自宅等）は限定しない。

また、選定理由は様々ある。以下の理由で取り組まれているケースが多い。

- ① 支え合いの実情が全く分からない地区
- ② 社協が気にかけている人の周辺状況を知りたい地区
- ③ 住民が「何かをしたい」と考えている地区
- ④ 認知症など、住民の個別課題が明らかである地区

過去にマップ作成を行った地域へのフォローも可とする。

2 協力いただく住民

おおむね 2~5 名（声掛けの状況、地域の実情により増えても構わない）

地域の状況に精通している方、長く住んでいる方など

例) 世話やきさん、サロンや集会室・公民館利用グループ、井戸端会議仲間、民生委員やこれらの方から紹介された方など

ポイント

協力いただく住民の選定は、マップ活動の流れを左右する重要なカギの1つです。住民と一緒にマップをつくるために、目的意識を共有し、住民がマップづくりのイメージをもてるようスタート地点となるこの時点で作戦を練ることが大事です。

＜選定に当たって配慮すること＞

- ・ 男性は内情を伏せてしまう傾向がある。一方で女性は井戸端会議の延長で、細やかな情報を話してくれる傾向がある。
- ・ 地区の自治会長等に当日の協力を依頼しない場合でも、事前にマップづくりの趣旨を説明すると、その後の取組が始まる時などスムーズになることが期待できる。
- ・ 協力いただくメンバー同士の相性。

＜住民への声かけ例＞

- ・ もう少しご近所のことを知りたいので、気になる人やつながり、ご近所や住民の強みなどを教えてくれませんか。
- ・ 女子会みたいな雰囲気でお話を聞かせてくれませんか。
- ・ 社協の取組に協力してくれませんか

＜説明グッズ＞

- ・ 地域支援調査（住民支え合いマップ）事業研修用 DVD（北海道民生児童委員児童委員連盟作成）
- ・ マップづくりを紹介した市町村社協の広報紙
- ・ 説明資料「マップ作成後ご協力のお願い」



<運営のポイント>

3 場所・準備するもの

- ・ オープンスペースではない場所。個人情報に配慮し、部外者に話の内容が聞こえにくい部屋で行う。
- ・ 模造紙などに書いた大きな白地図、書き込み用マジックを用意する。
- ・ テーブル・イス、座卓・座布団等を用意する。

4 役割分担

- ・ 進行係・・・趣旨・注意事項の説明を含めた全体進行 1名
 - ・ 聴き取り係・・・気になる人や住民の関わりなどを聞く係（進行係含め）1~2名
 - ・ 記入係・・・マップにつながり線等を書き込んだりシールを貼る係 1~2名
- ※ 経験の浅い生活支援相談員は基本項目を聞き取り、経験を重ねた生活支援相談員はフォローアップという役割分担を事前に行うとスムーズである
- ※ 職員体制や協力いただく住民の人数により柔軟に対応する

5 つながり線の書き方・色分けなど

当日参加する職員全員で、下記のことを確認し共有しておく

- ・ 線の書き方
 - 細線・・・普通のつながり → 太線・・・強いつながり →
 - ギザギザ線・・・関係が悪い・不仲線
- ・ 上記を基本として、記号、色、線種を工夫する
- ・ トラブルや感情のもつれがある場合や特徴等は、地図に言葉で補うことも必要
- ・ シールや線の色分けをする

〈つながり線の色分けの例〉

- ・ 行動範囲、つながりの線の色を分ける
- ・ 見守りの実態（種類）ごとに色を分ける・・・（※ P9 参照）
 - A 高度（頻度が高く定期的、直接的）
 - B 中度（直接的な接触あり、相手の様子を確認、やや定期的）
 - C 簡易（気にかける、たまたま、ついでに程度、不定期 何気なく見ている（目視）など間接的な場合もあり）

ポイント

マップ作成後、社協での振り返りの際に線を太くしてみるなど、上書きや補完することも大事です。



6 聴き取り時間

最初に時間を設定し、効果的な聞き取りにするよう 90 分以内を目安に終了する

～第2章 当日編～

1 聴き取りの前に

1 雰囲気づくり

雑談を交えて緊張をほぐし、話しやすい雰囲気をつくる（お茶・お菓子等を準備してもよい）。

2 趣旨・注意事項の説明

集まっていたいただいた皆さんに、趣旨・目的や注意事項を分かりやすく説明する。

① マップづくりの趣旨・目的

なるべく住民の皆さんに関わる、具体的で自分ごとになりそうなことを

例）「ご近所同士の関わりを地図に書き込みながら、地域のお宝、つながり、気になる人や困りごと、将来の不安などを皆さんと共有し、ひとり暮らしの方等でも安心して暮らせるような支え合いを生かした地域づくりを目指します」

② 個人情報に関する注意事項の説明

- ・ 社協や民生委員には職務上の守秘義務が課せられているため、ここで得られた情報は部外秘であるし、集まった住民も含め、皆が「ここだけの話」として秘密を守ること。
- ・ 住民のプライバシーを尊重すること。

3 自己紹介

社協担当職員、関係者、協力いただく住民で自己紹介をし、緊張をほぐす。

2 聴き取り項目

地域のつながりの実情を知る（地域アセスメント）のために、最低限必要な項目を次のとおりとする。

上乗せして聞き取って構わないが、下記項目は大切な情報となるので必ず聞き取る。

※ 【2】～【5】は地域の状況により、聞きやすい順番で聞き取って構いません

【1】協力いただく住民の情報

問い合わせの言葉	あなたの家はどこですか
----------	-------------

※ 自己紹介の時に聞いて構いません

【2】ご近所の基礎情報（個人、家族、地域の強みに着目）

問い合わせの言葉	ご近所の様子を教えてください
具体的キーワード	<ul style="list-style-type: none">・ 集会所や公民館、屯所・ 自治会の有無や自治会行事・ 買い物の場所・ 学校、神社、公園・ 空き家・ ゴミステーション・ 住民が集まる場所

【3】気になる人情報

問い合わせの言葉	気になる人はいませんか
具体的キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし（高齢者、就労中、男性、女性など） ・認知症高齢者 ・福祉サービス等の利用者 ・救急車や警察を呼ぶ人 ・アルコール摂取に課題のある人 ・障がい者 ・介護者 ・買い物や移動、除雪が大変な人 ・免許を返納した人 ・子どものいる世帯 ・ひきこもり ・結果的にどんな人か、よく分からない人（誰とどう行き来しているか分からない人）

※【3】は、①気になる人をどんどんピックアップし、後でそれぞれ個別の事情を掘り下げていくパターンと、②気になる人を1人挙げた上で、事情を掘り下げ、その後、別の気になる人に話題を移していくパターンと2パターンあります。

【4】つながり情報

問い合わせの言葉	ご近所で行き来している人はいますか、（【3】で聴き取った）気になる人に関わっている人はいますか、地区の人に世話をやいている人はいますか、なじみの関係の人はいますか
具体的キーワード (つながりの関係 や方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・血縁、親戚 ・学校つながり、同級生、幼なじみ ・通院先が一緒 ・グループ入居・元地区・元仮設 ・ペットを飼っている ・お隣りさん ・仲良しグループ ・なじみの店、行きつけの店 ・趣味 ・お茶飲みに呼んでいる人、おすそ分けをしている人 ・体調を気遣い、声をかけている人 ・一緒に散歩やウォーキングをしている人 ・カーテンや照明の点灯などを観察している人 ・相談にのっている人 ・サロンの集まりなど、声掛けして人を集めてくれる人 ・ゴミ捨てや買い物等を手伝っている人

ポイント

どのようなつながり・見守りなのか、実態(種類)に着目し、下記のとおり分類できるよう聞き取りましょう

- A 高度…B(中度)+ α 頻度が高く定期的、直接的。生活支援(家事援助)なども加味。
(例) 近親者(生活支援)、お世話やきさん、友人、当事者同士など
- B 中度…直接的な接触あり、相手の様子を確認、やや定期的
(例) 役職系(自治会長、班長、民生委員、管理人など)
 - ・ つながり系(ペット、元地区、老人クラブなど)
 - ・ 当事者系(同年代、同じ病院、ひとり暮らしなど)
- C 簡易…気にかける、たまたま、ついでに程度、不定期
何気なく見ている(目視)など間接的な場合もあり
(例) 災害公営住宅の同じフロア、同級生、郵便受けやカーテンの開け閉めの確認など
上記の見守りが、それぞれ ①一方向、②双方向、③グループか分類します。

※ 気になる住民を見守りしている人同士が情報共有している場合は③グループに分類します。

分類のための
質問例

「どのくらいの頻度ですか？」
「どんな時に?」「定期的?不定期?」
「他に関わっている人はいませんか?」

※ 社協内の振り返りで分類
してもかまいません。

【5】ご近所・住民の強み情報(地域人材の発見)

問い合わせの言葉	住民の長所や特技は何ですか(過去も含め)
具体的キーワード	<ul style="list-style-type: none">・ 看護師、介護士、教師等・ 大工、漁師、農家、自営業者・ 介護経験者・ 草刈りや掃除を率先してやってくれる人・ 誰にでも挨拶してくれる人・ 花の手入れが上手な人・ ○○(踊り、着付け、編み物、料理、日曜大工等)が得意な人・ 「気になる人」の長所・特技・趣味・努力していること等

※ 【2】、【5】は、【3】、【4】を聞き取る過程で関連づけて触れる項目。聞き忘れたときは、最後にその他まとめとして触れるのが自然です。

3 聴き取りの終わり方

- ・ 作成したマップを眺めて感想を聞く等、参加者の振り返りの時間を持つ。
 - ・ 社協での振り返り等の取組は継続するため、再度集まる機会をもつことを約束する。
 - ・ 再度、ここで話したことは「ここだけの話」であり、協力いただいた住民も含め、外部に漏らさないことを約束する
- ※ 住民との集まり(振り返り)は、内容を忘れてしまわないうちに、マップ作成からなるべく早めに(2週間程度)で行うとよいでしょう

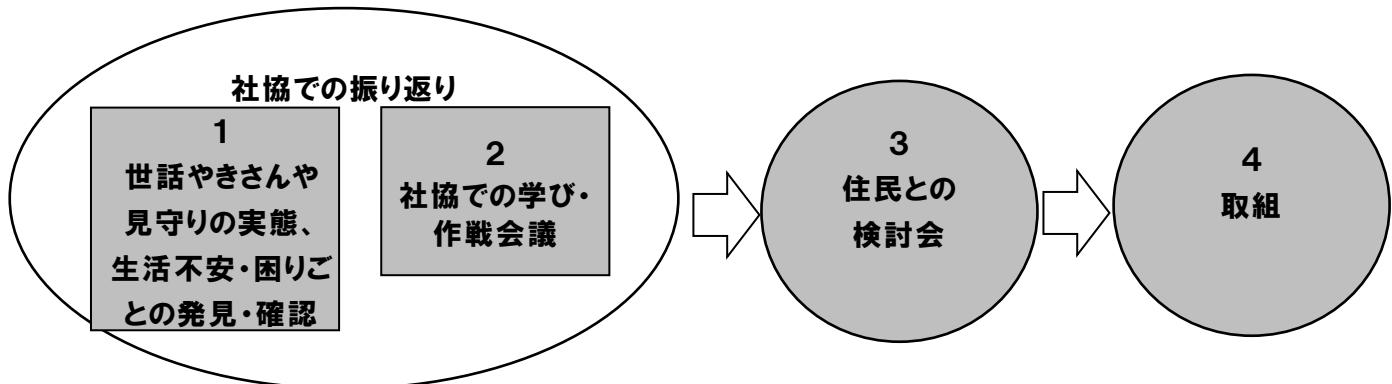
4 作成したマップの保管

社協で持ち帰り、保管する。

※ 「住民の手元に置き、いつでも取り出して住民同士で気軽に話し合える環境を整えるべき」との考えもあり、今後の検討課題の一つとなっている。

～第3章 実施後(フォロー)編 ～

1 マップ作成後に取り組むこと



ポイント

- 社協での簡単な振り返りは、なるべくマップ作成当日に行いましょう
- 個別の事例検討の進め方や手法を組み合わせ、他の生活支援相談員や社協の他部署、担当課長や統括、リーダー等と一緒に、意見を出し合い、取組を検討しましょう
- 行政等関係機関と、マップで把握した不安や困りごとなどを共有した上で、連携・協働して取組を進めることも有効です

1 世話やきさんや見守りの実態、生活不安・困りごとの発見・確認

- (1) マップ作成で見えてきたご近所の良さ・強み・お宝・特徴・世話やきさんの状況を整理する。
- (2) 住民はどのようなつながりを持っているか確認し、見守りの実態を分類する。
(9ページ目のポイント参照)
(例) 挨拶する、立ち話をする、お茶飲みをする、おすそ分けするなど。
※ 特に強いつながりを感じた場合は、線を太くする。
- (3) つながりの再構築に関して、現状と生活不安などを話し合う。
(例) 集まる場・交流の場がない、移動・買い物が不便、タクシー料金が高い、認知症の疑いがある人がいる、孤立している人がいる、排除されている人がいる、閉じこもっている人がいるなど。

2 社協での学び・作戦会議

(1) 見えてきた世話やきさんや見守りの実態、生活不安などに関して、社協内で、以下のようなことを話し合う。

- ① 使える制度、サービスはあるか
- ② 住民が自分たちでできそうなことがあるか。住民が自分ごととしてとらえられるようになるため（＝我が事化）に、どのような促しをするか
- ③ 社協が応援できる項目の想定
- ④ 今ある取組、見守りや生活支援を大切にするために、社協はどのような関わりをすればよいか

(2) 課題解決策を分類する。

【表 1】

生活支援相談員	住民	
	取り組みやすい	取り組みにくい
や す い 取 り 組 み	A サロンやイベントの実施、チラシ配布、お誘い	B 住民では入り込めない生活課題や周囲からの排除等
に く い 取 り 組 み	C 毎日の見守りや誘い合って乗り合わせ買い物に行く等	D 行政、制度 バス停の設置、バスの本数を増やす等

(3) 取組課題が見つからない場合の対応策等

- ・ 【表 1】Dのような大きな地域課題では、その後の展開が難しい。しかし、取組につながる種はあるので、A、Cにつながるような取組で補えないか考えてみる。
- ・ 2回目のマップ作成の機会を設定し、さらに詳しく聴き取ってみる。
- ・ 普段の訪問活動やサロン等で、気になること等の情報を立ち話的に補足する。



- ・ 「ご近所の関係性がわかった」ことがマップを使った地域アセスメントの成果。
- ・ 住民は「福祉」や「助け合い」を意識して生活していないが、「今できていること」、「強み」を探し、住民に伝え返すことで、ご近所の良さ、「助け合い」を意識できる。「やってみようかな」とのきっかけになる。
- ・ マップ作成の数をこなし、小さな成功例等を積み上げていく。

- マップでご近所の強みが見えてくる
例) 要援護者が多いが、デイサービスや施設利用者が少ない
→ 地域で暮らしている強さ
- マップの実態から世話やきさんや、集まりの場(ラジオ体操、花壇づくりなど)、活動(草刈など)を把握し、ご近所の安心づくりを高めるための「推しどころ(ポイント)」を見極める。
→ 地域資源(人・もの・活動)の発掘
- 生活支援相談員による気になる世帯の見守りのみならず、「推しどころ(ポイント)」を把握して、住民相互の見守りネットワークにつなげる働きかけが可能となる

3 住民との検討会

発見した課題を介して、住民と一緒に取り組む内容を検討する。

(1) 参加の声掛けの範囲

- ① 聴取対象者
- ② マップ作成当日に欠席した方も含め、聴取対象者のほか、取り組んでくれそうな人、協力してくれそうな人等。

(2) 内容

- ① 社協で振り返った内容を報告する。
※ 社協が応援できる項目はあらかじめ想定はしておくが、住民に対して具体的な提案はせず、住民を「支えること」を基本とする。
- ② マップで見いだした強みを生かす、ご近所でできていること、できそうなこと、そのために社協が支援できること等について検討する。
※ つながりの再構築のために住民ができそうなことは何か考えてもらい、それを支えるということを基本とする。
- ③ つながりの再構築のための取組は、住民の発意、発想、流儀にのっとる。
(例) 盆踊り、お茶飲み、ラジオ体操、カラオケ等。

(3) 注意事項

聴取対象者以外の参加等、検討会のメンバーによっては、作成したマップは持参しない等、取扱いに注意する。

4 取組

住民の主体的な行動を促しながら取り組んでいく。取組例は次のとおり。

〈取組例〉

- (1) 住民との検討会を重ねること
- (2) 2回目のマップ作成
- (3) マップで見いだされた現在の取組・見守りの維持・継続

- 例) ① Aさん、Bさんの見守りの関係
② ベンチに集まっている住民による複数の入居者の安否確認
③ ラジオ体操による見守り 等



※ 現在の取組を維持するために、無意識的に上記の見守りを行っている人に対して、たまに様子を伺うことや「変化があったら教えてください」等のちょっとした声掛けをします。そのことで、「聞かれるから続けよう」等、見守りをしているという意識化や住民の主体形成につながることがあります。

(4) 住民との検討会で話し合われたアイディアの実践・きっかけづくり

事例 1) ~既存の住民と災害公営住宅との交流のきっかけづくり~

- 既存の地域に、災害公営住宅世帯が混在(約 60 世帯)
- 支え合いマップ作成で「災害公営住宅に集会所がなく、交流の機会がない」との意見があり、顔合わせのきっかけとなるイベントを企画。
- マップを再活用し、生活支援相談員等が個別に丁寧に訪問しながら周知。民生委員が住民に働きかけ、企画、準備、当日の運営に住民が関わってイベントが開催された。
- 住民同士の交流と民生委員とのつながりが強くなった。



事例 2) ~既存の住民と移住再建世帯の交流のきっかけづくり~

- 既存の地区(修繕再建世帯と住宅等被害無世帯)に災害公営住宅等移住再建世帯が混在。
- 支え合いマップ作成で「団地内に交流の場があった方が良い」との意見があり、企画する方向で話が出された。
- 屋外でのサロンや健康運動を企画し、生活支援相談員が配布したチラシのほかに、マップづくりに協力した住民が他の住民にお説明の声かけをしたほか、参加した方が欠席した方に体操などの内容を教えたことや自身も自宅で継続して体操を続けている。
- 協力者同士が話をする機会が少なく、コミュニケーション不足を感じていたが、今は直接話す機会ができたことで少し解消された様子があつた。



事例 3) ~要援護者の避難についての検討・意識の高まり~

- ひとり暮らしが多く、元地区と他地区が混ざっている災害公営住宅。市内の中心部にあり、近隣にも災害公営住宅が建っている。
- 支え合いマップ作成で「要援護者の避難」についての話題が出た。
- 後日行われた、近隣の災害公営住宅と合同での消防訓練で、住民が要援護者、自力で避難が困難な人の対応を消防署の方に直接質問していた。



事例 4) ~行政と連携したマップの取組~

- マップ作成に行政職員や保健師、地域コーディネーター等も参加。終了後に支援者間での振り返りの時間を設け、挙げられた地域の困りごとや要望に対する今後の取組の方向性を確認。
- 後日、上記職員も一緒に地域の困りごと、地域の強み・弱み、困りごとへの解決方法、各機関で協力できそうなことを話し合い、その後の住民との検討会にも一緒に参加している。



応用編

事例 1) ~社協他部署と連携し地域支援事業の立ち上げと運営にマップを活用~

- ひとり暮らし高齢者と子育て世帯が入居する災害公営住宅、防災集団移転世帯と、既存の地区が混在。
 - 社協の生活困窮自立支援事業と、地区の民生委員が「子ども食堂」を立ち上げようという動きがあり、お世話やきさん・協力してくれそうな方などの地域の資源や子どもがいる世帯の状況を把握する1つの方法としてマップを活用。
 - 対象世帯への声掛けや食材提供の協力者を得ることができた。
- 2回目以降のマップでは「子ども」に焦点を絞って作成したことで、運営協力者や周知方法など更に具体的な提案があり、住民を巻き込んだ「子ども食堂」の実施が実現。
- 以降、毎月定例的に子ども食堂を開催している。



事例 2) ~気になる世帯（個人）から聞き取るマップづくり～

- 生活支援相談員が気になる世帯（個人）から、把握していない近隣住民とのつながりを把握するため、個人から近隣住民との関係や地域の状況を聞き取り、マップを作成。
- 本人から聞き取ることで、実は近隣住民の情報をよく把握していることやつながりが多かったこと、本人の強みを把握することができた。
- 見守りネットワーク化の「推しどころ（ポイント）」を把握できた事例。



事例 3) ~関係性が分からぬ災害公営住宅等新たなコミュニティにおける自己発信型のマップづくり～

- お世話やきさんや住民同士の関係性が分からぬ災害公営住宅において、救急医療情報キット（安心キット）の配布とともに自己発信による支え合いマップの作成に取り組んだ事例。
- 安心キット説明会で白紙マップを広げ、参加者が自己情報を開示するほか、気になる世帯情報などを聞き取った。
- 安心キットの設置とともに、ご近所同士の「見守り合い」の大切さを伝え、緊急連絡先が空欄の方同士の番号交換を推奨するなど、支え合う意識の醸成とつながりづくりにも努めた。
- お世話やき予備軍を発見することができたほか、マップ作成によって住民同士がお互いの情報を共有し、新たなつながりが生まれるきっかけとなった事例。



参考資料

下記の資料を必要に応じてデータ加工の上利用する。

- 住民向けチラシ「支え合いマップづくりへのご協力のお願い」（岩手県社協名）
 - ・ 全県での取組であることの周知
- 住民向けチラシ「支え合いマップづくりへのご協力のお願い」（市町村社協名）
 - ・ 具体的な日にち等の案内

～ Q & A 編 ～

Q1. 個人情報の話題が出された場合・・・

A. (著書：木原孝久氏「ご近所ボランティア活動手帳」より引用)

これからご近所で助け合いをするのだから、お互いがオープンになり合うことが必要です。要援護者の情報が分からなければ助けられないで、助け合いの輪の中では情報を共有します。また、マップづくりで出す情報は、ご近所内でご近所さんが既にしていることだけです。行政などからの情報などは出さないように、支援者にも確認します。



Q2. ニーズを深掘りするための質問の工夫は・・・

A. 経験が浅い生活支援相談員は基本項目の聴取、経験を重ねた生活支援相談員は、付せんにキーワードを書きマップの枠外に貼ると、経験が浅い生活支援相談員がポイントや聞き忘れたこと等を確認できます。

マニュアルのP7～9 聽取項目のキーワードや強みなどのポイント（例：草刈、掃除、〇〇が得意、お散歩、ペットを飼っている等）を参考に、「地域にはどんな見守りの実態があるのか」、「見守り力をアップさせる」、「見守りの姿を継続させる」という目標を明確にするとよいでしょう。

Q3. 協力住民が見つからない場合は・・・

A. 地域の民生委員に相談してみると、協力住民を紹介してつないでくれたり、声をかけてくれるケースが多くみられます。まずは、民生委員に支え合いマップを理解していただけるよう、趣旨・目的を丁寧に説明し、目指したいご近所のイメージを共有しながら相談してみましょう。

Q4. 福祉マップ、要援護者マップと支え合いマップの違いは・・・

A. 支え合いマップは、気になる世帯、要援護者等をピックアップするだけではなく、概ね50世帯の地図に、地域の良さや気になる世帯に誰が関わっているか、つながり等を書き込みます。地域の困りごとや生活不安などの取組課題を抽出するほか、民生委員の引き継ぎやイベントの開催、地域福祉活動計画を策定する際の地域の特徴、地域力の把握にも生かすことが期待されます。